

都小道研会報



「二年間よろしくお願いいたします。」

東京都小学校道德教育研究会会長
昭島市立田中小学校校長

星 野 典 靖

令和八年二月六日、昭島市立田中小学校における臨時総会において、会員の皆様からご承認をいただきました。令和八年度東京都小学校道德教育研究会会長の星野典靖（ほしののりやす）です。都小道研のさらなる発展を目指すことと関係機関等との連携を密にすることを目標として一年間務めてまいります。皆様、どうぞよろしく願います。

さて、現在の教育は大きな転換期にあります。中央教育審議会の論点整理では、予測困難な時代において、主体的に未来を切り拓く資質・能力の育成が求められています。知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力、さらには学びに向かう力や人間性をバランスよく育てることの重要性が示されました。この方向性は、道德教育の本質と深く重なります。多様な価値観の中で、自他を尊重し、対話を通してよりよく判断しようとしたり、自らの生き方を問い続けたりする姿勢を育むことは、これからの社会を生きる子供たちには不可欠です。「個別

最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる視点は、道德科の授業そのものに通じています。本会では、『考え、議論する道德』の実装のフェーズに向けた授業改善を一層推進してまいります。

さて、令和七年度の大学入学共通テストの十五科目の問題をAIに解かせたとき、その得点率が九十六、八％という高い正答率を示したとの報道がありました。今やAIは知識や計算の面で人間と同じくらい、あるいはそれ以上の力をもっていることが分かりました。しかし、それと同時に、「AIをどう使うか」は人間に委ねられていることもはっきりしました。

そこで大切になるのが、思考、判断、行動などを通してよりよく生きるための営みを支え、道德的行為を可能にする人格的特性の基盤となる「道徳性」です。AIは一見正しいと思われる答えを出してくれますが、それが本当に自分自身や集団・社会のためになるとは限りません。だからこそ、AIの出した答えをそのまま信じるのではなく、

「これでよいのか」と考えることが大切なのです。また、AIに頼りすぎると、自分で考える力が低下するという心配もあります。最終的にどのように行動するのかを決めるのは人間であり、その結果に責任をもつのも人間です。つまり、「道徳性」を養うことで、AIを正しく使い、周りの人や社会にとってよりよい形で役立てることができます。

道德教育の目標は「道徳性」を養うことであり、その要である道德科の授業は大変重要な役割を担っています。道德科の授業では、多様な思いや考え等に触れ、自分とは異なる立場を理解・尊重しながら、「何がよりよいことなのか」を考える経験を積むことができます。これは、AIにはできない極めて人間らしい学びです。これからの社会では、AIを使う力だけでなく、それを正しく使うための「道徳性」がますます重要になります。その基盤を養う道德教育や道德科の授業は、これからの時代にとって欠かすことのできないものだと考えます。

その具現化のために、本会では、児童が自ら問いをもち、多面的・多角的に考え、自己の生き方と結び付けていく学びを重視し、教材研究や発問、話し合い活動の質の向上に取り組んでまいります。さらに、デジタル学習基盤の活用や情報モラルの指導、学校・家庭・地域の連携、特別支援学級における道德科の授業等も大切な課題と捉えて、研究を進めてまいります。

これらに加え、私たち教師自身が学び続けることも大変重要です。これまでと同様に、本会は「研究は厳しく、人間関係は温かく」を合い言葉に、互いに学び合い、実践を高め合う場として機能するよう努めてまいります。

子供たちがよりよく生きようとする力を育み、東京都の道德教育の一層の充実を図るため、研究主題「児童が主体的に道徳性を養う道德科の指導」道徳科の特質を踏まえた指導の工夫」を目指して、研究活動に邁進する所存です。

結びになりますが、今年度も、文部科学省、東京都教育委員会、各地区教育委員会、東京都小学校教育研究会連合、全国小学校道德教育研究会、関東地区小学校道德教育研究会、東京都中学校道德教育研究会、顧問・OB会をはじめ、各関係諸機関の皆様からのご指導を賜りながら密な連携を心掛けてまいります。

一年間、よろしくお願いいたします。

令和八年度

第六十四回臨時総会

並びに研究発表会

日時：令和九年二月五日（金）

午後一時三十五分から
（受付午後一時十五分から）

会場：江戸川区立上小岩小学校

各地区の理事・部長の方々へ

本会報を区市町村教育委員会へ二部、各小学校へ一部配布をお願いします。

発行所 東京都小学校道德教育研究会
事務局 昭島市立田中町三丁目四十一

発行者 会長 星野典靖
広報部長 藤山由仁

都小道研の活動

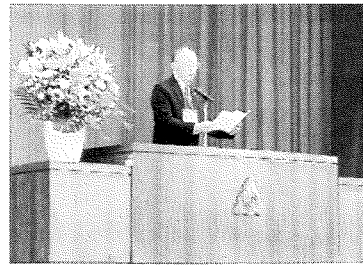
令和八年度第六十四回東京都小学校
道徳教育研究会定期総会並びに講演会

日時：令和八年五月二十八日(木) 十四時～十六時四十五分
会場：昭島市立田中小学校

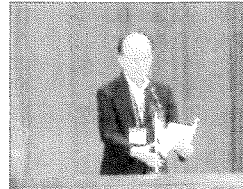
定期総会

- (一) 開会の言葉
(二) 会長挨拶

都小道研副会長 宮本 知司
都小道研会長 星野 典靖



第43代都小道研会長
会長 星野 典靖



都小道研顧問・OB会会長
(第36代都小道研会長)
宮島 徹様

(三) 来賓あいさつ

東京都教育庁指導部統括指導主事 宮西 真 様
昭島市教育委員会 教育長 山下 秀男 様
都小道研顧問・OB会会長 宮島 徹 様

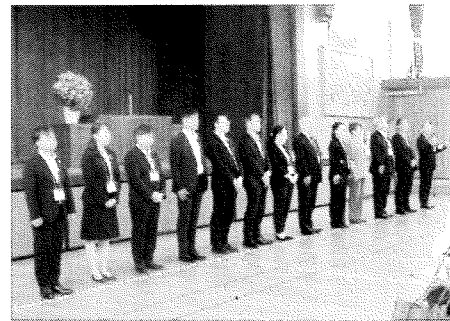
(四) 来賓紹介
都小道研庶務部長 平野 真由美 様

(五) 表彰(色紙贈呈)

「和顔愛語」という言葉が
書かれた色紙が、都小道研顧
問・OB会会長の宮島様より、
前都小道研副会長(杉並区立八
成小学校長)浮ヶ谷優美先生
に送られました。
(会長代理受取)



(六) 役員紹介



令和8年度 都小道研役員

会長	星野 典靖 (昭島市立田中小学校)
副会長	宮本 知司 (江戸川区立上小岩小学校)
副会長	椿田 克之 (練馬区立石神井小学校)
副会長	山岸 史子 (練馬区立泉新小学校)
副会長	鈴木 裕子 (八王子市立由木東小学校)
総務部長	由良 隆 (墨田区立二葉小学校)
庶務部長	平野 真由美 (渋谷区立加計塚小学校)
渉外部長	熊木 崇 (練馬区立小竹小学校)
広報部長	藤山 由仁 (中央区立月島第一小学校)
調査部長	松井 良 (青梅市立友田小学校)
研究部長	関 祐一 (練馬区立豊溪小学校)
研修部長	土生津 静 (足立区立花保小学校)
実践部長	三品 孝之 (国立市立国立第五小学校)

(七) 議長選出

議長 研修部長 土生津 静

(八) 議事

- ・ 令和七年度 事業報告・決算報告・監査報告
- ・ 令和八年度 研究主題(案)・事業予定
- ・ 予算(案)・会計監査選出

(九) 閉会の言葉

都小道研副会長 山岸 史子

講演会

「児童が主体的に道徳性を養う道徳科の指導」

道徳科の特質を踏まえた指導の工夫

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

堀田 竜次 先生

◎講演の概要

〈はじめに〉

今日は昭島市教育委員会の皆様や東京都教育委員会の皆様がたくさんお越しくださっています。いつも学校を温かく支えていただき、本当にありがとうございます。さつ

そくお話をさせていただきます。今日は、「児童が主体的に道徳性を養う道徳科の指導」とは何か、ということを中心にお話を進めていきます。

「調査部会の資料から・・・」
「考え、議論する道徳」の実装」のフェーズへ」
道徳科を進めていくにあたって、「これは大事にしなければならぬ」と思っているデータがあります。それが、東京都小学校道徳教育研究会が実施した調査研究のデータ

です。なぜこのデータを大事にしたいかというと、多くの学校、多くの子供たちの声を集めてくださっているからです。今日お配りしている資料の中のグラフを眺めてみると、多くの先生方が指導方法の工夫をしながら道徳科の授業を進めてくださっていることが分かります。その一方で、「どちらかというときていない」「できていない」と先生方が感じている部分があります。そういったデータも大切にしながら、今後の道徳科の授業づくりについて考えていくことが重要だと思っています。

道徳ワーキンググループの資料で、全体的な課題の中に、「考え、議論する道徳」への質的転換が、まだ道半ばであるとの指摘がある」ということが示されています。これらを踏まえつつ、道徳ワーキンググループでは、現在、「考え、議論する道徳」への転換のフェーズから「考え、議論する道徳」の実装のフェーズに移行するものとして、道徳教育の質の向上の在り方を中心に検討が進んでいます。

道徳ワーキンググループの資料で、全体的な課題の中に、「考え、議論する道徳」への質的転換が、まだ道半ばであるとの指摘がある」ということが示されています。

これらを踏まえつつ、道德ワーキンググループでは、現在、『考え、議論する道德』への転換のフェーズから『考え、議論する道德』の実装のフェーズに移行するものとして、道德教育の質の向上の在り方を中心に検討が進んでいます。

〈内面的資質としての道德性〉を養う〉

ここで、「道德科の特質」について確認しておきたいと思います。道德科の特質は「内面的資質としての道德性を主体的に養っていく時間」ということです。

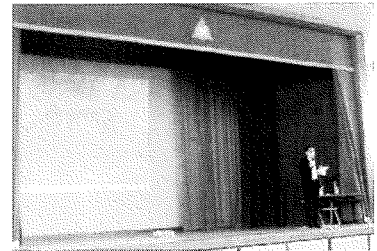
このことをしっかりと理解した上で、「明確な指導の意図」をもち指導方法の工夫を図っていくことが重要です。

道德科の授業を進めるにあたって、道德科の目標と特質を踏まえ、教師が明確な指導の意図をもっているということが大切です。このことが留意されているのであれば指導方法は多様であってほしいと思っています。

〈指導方法の工夫について〉

例えば、話し合い活動においても、多くの先生方が悩まれています。調査部のデータで、約二十二%の先生方が「話し合い活動を意図的に取り組ませることができていない」と回答されていました。話し合いは、中学校の解説にあるように、生徒が友達の方え方についての理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりすることができます。

他には、ボジショニング機能を活用し、自分の立場を明確にしてから話し合うことができるようにしたり、板書を効果的に使って子供たちの思考の流れを可視化したり、役割演技を取り入れて、ねらいとする道德的価値について多面的・多角的に考えられるようにしたりすることも考えられます。



講師 堀田 竜次 先生

〈おわりに〉

ここまで、データや具体的な実践をもとお話しさせていただきました。ぜひ、これからも子供たちと一緒に道德教育、その要である道德科の学びを楽しんでいただけたら幸いです。

これで私の話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

各部会・部員総会

・部員の顔合わせ、年間計画等話し合い

・各部の紹介 調査部↓研究部↓研修部↓実践部↓

総務部・庶務部・渉外部・広報部

全体の中で、各部の活動内容や抱負等を部員が話しました。

令和八年度 役員の退任をお祝いする会



還暦を迎えられた役員(元役員)の功績をたたえ、お祝いと感謝の念を表す会として、全小道研と共催で毎年行っております。今年度は、前都小道研会長の吉田友信先生と、全小道研副会長の吉成美紀先生(当日はご欠席)をお祝いしました。

日時：令和八年六月十九日(金) 十八時三十分

会場：喜山倶楽部

(一) 開会の言葉

(二) 発起人代表挨拶

(三) 功績紹介

(四) 来賓祝辞

(五) 来賓紹介

(六) 記念品贈呈

(七) 乾杯

(八) 歓談

(九) お祝いの言葉と挨拶

(十) 中締め

(十一) 閉会の言葉

全小道研顧問代表 生形 章 様

吉田 友信 先生

荻原 武雄 様

橋本 誠司 様

令和八年度 TOKYO 道德教育ミーティング

本会では毎年「道德講演会」を開催し、東京都教育庁指導部並びに東京都教職員研修センター研修部の皆様から東京都の道德教育の情報についてご指導いただいております。昨年度は、「地区理事・部長研修会」に加えて「指導教諭連絡会」も開催し、東京都の道德教育の推進について、様々な情報交換ができるようにしました。

本年度は、「TOKYO 道德教育ミーティング」に名称を変更するとともに、夏季休業期間中の開催とし、都小道研会員はもとより東京都の道德教育推進という同じ志をもつ皆様とともにたくさん語り合いたいと考えています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時：令和八年八月二十一日(金) 十三時三十分

会場：渋谷区立加計塚小学校

内容

第一部 道德講演会

① 東京都教育庁指導部より

② 東京都教職員研修センター研修部より

第二部 地区代表者・部員研修会

① 指導教諭からの実践報告や代表者による示範授業等を予定

② 小グループでの情報交換

③ 指導講師(都小道研顧問より)

お願い

① 所属の名札等名前の分かるもの、上履きを持参ください。

② 終了後、会場を移しての会を準備しております。

併せてご予約ください。

各部の活動

総務部

部長 由良 隆

総務部は、都小道研全体の調整役として各部の連携を図り、それぞれの活動が円滑に進むように運営をしています。特に大きな事業の開催に際しては都教委や全小道研との調整も行います。

① 指導者研修会(八回)

会長・副会長講話や各部情報交換等により、役員・理事の研鑽のために実施します。

② 第六十四回定期総会並びに講演会

五月二十八日に昭島市立田中小学校で開催します。(終了後、部間の連携を意図し部員総会を実施します。)

③ TOKYO道徳ミーティング

八月二十一日に渋谷区立加計塚小学校で実施。都の道徳教育の一層の充実を期し、同じ志をもつ皆様が一室に会して情報を交換します。

④ 第六十四回研究発表会並びに臨時総会

二月五日に江戸川区立上小岩小学校で公開授業と併せて開催予定です。

庶務部

部長 平野 真由美

庶務部は、名簿や各案内通知の作成、関係の皆様への発送作業等、都小道研の窓口としての仕事を担っています。

令和八年五月二十八日(木)に昭島市立田中小学校にて、「令和八年度 東京都小学校道徳教育研究会 第六十四回 定期総会並びに講演会」を開催しました。当日は、東京都教育庁指導部、東京都教職員研修センター、昭島市教育委員会、昭島市立田中小学校道徳教育協議会の皆様をはじめ、全国小学校道徳教育研究会の皆様、各地区の道徳研究会理事・部長の皆様、当研究会顧問やOB・OGの皆様、役員・部員を合わせて百名の参加がありました。講演会の後には、部員総会を行いました。まずは、それぞれの部が集まり、自己紹介や情報交換をしました。その後、部ごとに登壇し、部の紹介を行い、互いの紹介を聞き合いました。

渉外部

部長 熊木 崇

渉外部では二つの活動を行っています。

第二は、「東京都教育委員会研究推進団体支援事業」に係る活動です。東京都教職員研修センターは、東京都教育委員会研究推進団体の認定を受けた研究団体に對して、研究活動の活性化と研究成果普及のために「研究推進団体支援」「研究普及活動表彰」という二つの取組を行っています。本会もこの事業に申請して支援を受けたり、本会各部の研究活動の紹介を行ったりします。

第二は東京都小学校研究会連合(通称・都小研連)との連携です。都小研連では、広報誌を発行していますが、東京都小学校道徳教育研究会もこの連合の一員として、原稿を寄せています。

このように他の研究諸団体との連携・調整を図りながら、東京の教育を向上させる一団体として、研究の向上と成果の普及に努めて参ります。

広報部

部長 藤山 由仁

広報部の役割は、東京都全体の道徳教育の充実を図るため、都小道研や各地区で行われている研究の実践を紹介したり、各種講演内容やアンケート結果などを周知したりすることです。今年度も、各部の授業研究へ取材に行き、情報をHPに掲載したいと思っています。

各地域や各学校における道徳教育の推進の一助となるよう中身の充実を図っていききたいと思ひますので、情報がありましたら、ぜひ広報担当までお知らせください。よろしくお願いいたします。

調査部

部長 松井 良

令和八年度の調査概要は以下のとおりです。

①「自己肯定感の醸成に関する経年調査」
経年変化を見続ける意味で継続します。

②「研究主題に関わる調査」
児童が主体的に道徳性を養う指導の視点で、自

らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることについて、教師の指導と児童の実態を調査します。また、道徳科の特質を踏まえた指導の視点で、道徳性を養うために行う道徳科における学習について指導の実態を調査します。

③「道徳科の評価に関する調査」

個人内評価として見取るための視点として、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか、道徳的価値の理解を自分自身の関わりの中で深めているか、の二点について指導の実態を調査します。今年度から新たに自己の授業を評価する設問を加え、質的向上の課題把握につなげていきます。

研究部

部長 関 祐一

研究部は、研究を通して「深める」ことを目的としています。そのため、研究主題に迫るべく、全部員が一丸となって全力で研究を推進してまいります。

さて、令和八年度の研究主題は、前年度に引き続き、「児童が主体的に道徳性を養う道徳科の指導」とし、副主題を「道徳科の特質を踏まえた指導の工夫」と設定しました。これまでの研究の成果を生かし、年間三回の授業研究会を開催するとともに、毎月の研究部会にて協議を積み重ねながら、道徳科の指導の在り方を追究します。

所属する全ての部員が、「日々の授業で研究的に実践する」ことを礎として、各部と連携しながら、研究活動を充実させたいと考えています。

【授業研究の日程等】

- ① 七月十六日 平井 勇人(足立・花保小)
② 十月 後日決定
③ 十一月 後日決定

研修部

部長 土生津 静

研修部は、「授業実践の研修部」「広める研修部」としてこれまで積み重ねてきた実践を生かして指導の工夫をさらに充実させるべく研究を推進していきたく考えています。

今年度は研究主題に基づき、研究仮説を「自己

の課題と向き合い、他者と協働したりよりよい生き方について考えを深めたりすることのできる授業実践を通して、主体的に道徳性を養う児童を育成できる。」と設定しました。年間六回の授業研究を通して、①自己の課題と向き合う、②他者と協働する、③自己を振り返り課題や成長を自覚する、の三つの視点から検証を行い、研究に取り組んで参ります。

【授業研究の日程等】

- ・ 七月 二日 若水 龍(中野・令和小)
・ 九月 十五日 奥村 雅江(練馬・石神井西小)
・ 十月 三十日 今村 雄登(足立・島根小)
・ 十一月 十六日 倉岡 睦子(東久留米・第五小)
・ 十二月 十一日 菅原 梓(町田・第三小)
・ 一月 二十九日 前田 康介(台東・根岸小)

実践部

部長 三品 孝之

実践部では、昨年度に引き続き、都小道研の会員以外の方とも道徳授業について共に、考え、学び合う機会を作っていくことを目標としています。どのように道徳授業を進めたらよいだろうかと思ひ、書籍等から学んでみてもしっくりいかない方や区市町村の教育研究会の道徳部には所属していても、年間を通しての都小道研での研究はハードルが高く、その一歩を踏み出せずにいる先生方は少なくないと思ひます。私たちは、授業研究や研修会等のスタイルにこだわらず、一緒に話し合える場を作りたいたいという部員の思いを多くの方に届け、目の前の児童のために道徳の授業について考える楽しさを味わい、よりよい道徳授業をしたいと取り組む先生を増やしていきたいと願っています。

今年度も2回の授業研究を通して学びを深め、研究発表発表につなげていきます。また、弥生会の先輩方との連携も大切に、現在の都小道研の活動をご理解いただくとともに、御指南をいただけたらと思ひます。道徳教育研究のすそ野を広げる窓口・入口の役割を果たすべく、各部や各地区の教育研究会と連携して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。